

## 2000年問題



過ぎて見れば何事もなく迎へたる

AD2000の危ふき静けさ

全世界が大騒ぎした2000年問題も、一月の声を聞くとすでに過去の語り種となった感がある。

今朝のテレビで経済の指数について論じられていたが、昨年末の経済は若干陥ちこんでいるそうだが、原因の一つに2000年問題による旅行のさし控えを挙げていた。

私などは、万が一を危惧して、夫が不要だと言つのに耳もかさず、ガスボンベや電池、備蓄の出来る食料など買い込んだ。およそ全世界がながしかの予備の品物を買つたことだろつから、GNPは上がったのではないかと思つていたが、下がつたということば、やはり現在の不況の不気味な根深さを感じ

ざるを得ない。

一般の人々は、何故四桁の西暦を下の二桁で済ませていたのかと、おざなりともお粗末とも思つたようである。しかしこの問題は、この三十年ほどの間のコンピュータのハードウェアが予測をはるかに上回る急激な進歩したのに比して、ソフトウェアの進歩が追いついていないことから来ている。

私がコンピュータの仕事に着いたのはまさに三十年前の一九七〇年であった。当時はコンピュータが実用化され、役所や企業が取り組みはじめた時期で、雨後の筍のように出来たコンピュータ学校の花盛りであった。好奇心の強い私は、一才4カ月の三男を近所の主婦に半日あずかつてもらつて、新宿にあつたある専門学校に一年間通つて一応の知識を身につけた。そして自転車で十分ほどの処にあつた大手電機会社の電算室に嘱託として入つた。三十五才の春であつた。

当時の計算機は、真空管、トランジスターの時代を経て集積回路の時代に入つたばかりである。現在のの

物と理屈は変わらなくとも、図体は大きく、今のよ  
うなミクロの回路から見れば玩具にもならないもの  
であった。計算を行ったり、読み込んだデータを蓄  
えておくメモリーの容量は小さいものだった。従っ  
てその範囲で動くシステムを組み立てねばならない。  
日付のように一件のデータの中に、契約日、発注日  
処理日、納期等々、何個もの日付項目が必要ともな  
れば、如何にコンパクトに持つかということが重要  
なのであった。

当時から見ると2000年ははるかかなたであつ  
た。自分の作っているシステムは、その頃はより新  
しいものに置き変わっているに違いないと思ってい  
た。しかしハード面での想像を越えた進歩の著しさに  
比べて、ソフト面の進歩はぐっと遅れていた。そ  
れにその間にシステムは網の目のように複雑に広が  
り、深く浸透してしまつた。データファイルの設計  
の変更などは簡単なのだが、それが何処でどのよう  
に使われているか掴み切れない部分が生じても不  
思議はない。

とはいえ種々の制御の機械に組み込まれている日  
付情報の年が二桁だったというのは迂闊だったので  
はないかと思う。保存するデータとは違つただから  
もうその頃には四桁にしたからといって大した負担  
にもならなかつたのではなかつたか。その不具合の  
与える影響の方がはるかに危険でもある。しかしこ  
れも安上がりという自先の利益優先が原因だつた  
かもしれない。そして改めて身の回りの電化製品に  
多くのマイコンが内蔵されていてその機能に依存し  
ていることを認識したことだつた。

ともかく関係者の必死の努力で、殆ど何の問題も  
なく乗り切れたことは、有り難いことであつた。こ  
うした体験は、自信にもなるばかりでなく、全世界  
が共通した危機に立ち向かつたという連体意識を持  
つことの出来た貴重な体験だと思つた。

それにしてもまだ我が町の会計システムは三十年  
前と何一つ変わっていないのには驚いた。各公民会  
ごとに決められた会計係が固定資産税、健康保険税  
水道料、町内会費などの集金表を作つて、班長さん

に二戸一戸集めさせる。プライバシーなどあったものではない。会計係はその集まった大金を役場の会計窓口に参加する。それに対する町からの褒賞金がこの不合理なシステムを現在まで温存してきた。

今期の会計係になったわが家は、このキャッシュレス化の進む世の中に、毎月変わる水道料など記入して集計表を作成して集金係に依頼する。そして大金を大事そうに抱えてくるお年寄りの集金担当を見ると、こんなことをいつまでもやっていることはいと思う。合理化すれば合理化分は町民に返ってくる筈だ。

2000年問題を期に、身近な電算化について考えているこの頃である。

